

平成 30 年 渡辺整形外科病院 病院指標

当院では、D P C（診断群分類包括制度）入院患者さんの病状をもとに、処置等の内容に応じて定められた 1 日当たりの定額点数をもとに医療費計算を行う、国が推奨する新しい制度を取り入れております。

この制度の対象となる患者さんは、医療保険適用の方で、入院中に一般病棟に入院された方を対象とします。

また、自賠責・労災・自費等の患者さんや、直接、地域包括ケア病床又は回復期リハビリテーション病棟のみに入院された方、及び国の定められた項目の患者さんは D P C 対象外となります。

今回の病院指標は、H 3 0 年 4 月より H 3 1 年 3 月までに当院を退院された D P C 対象の患者さんのデータを集計の対象としました。

*この指標は、全国統一の定義と形式に基づいた指標となっております。

*当院は整形外科単科病院です。

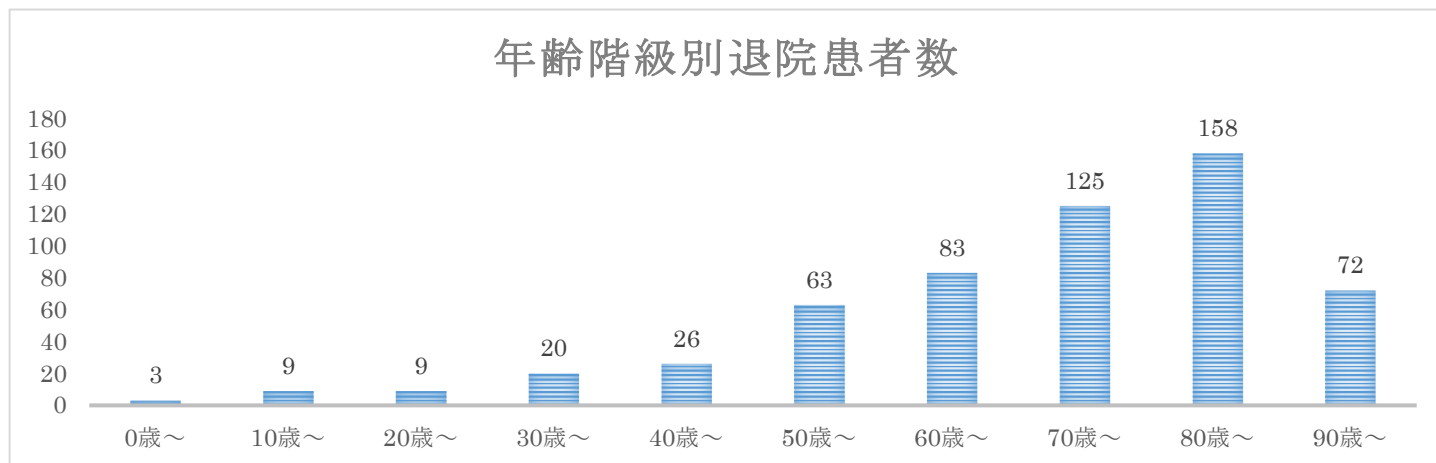
病院指標項目

1. 年齢階級別退院患者数
2. 診断群分類別患者数（上位 5 位）
3. 初発の 5 大癌の U I C C 病期分類別並びに再発患者数
4. 成人中肺炎の重症度別患者数
5. 脳梗塞の I C D 10（疾病）別患者数
6. 主要手術別患者数（上位 5 位）
7. その他（D I C、敗血症、その他真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

1. 年齢階級別退院患者数

退院数を 10 歳刻みの年齢階級別に集計しています。年齢は入院日の満年齢です。

ただし、90 歳以上は 1 つの階級としております。



整形外科単科である当院は、地域の救急告示病院として主に整形の患者さんを受け入れております。整形外科専門医による手外科、四肢外傷、関節疾患、脊椎疾患などの手術を主に行っております。70 歳以上の患者数が全体の 6 割以上を占めています。

診断群分類別患者数（上位5位）

診察科：整形外科 診療コード：11

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む) 手術なし 定義副傷病なし	120	50.9	32.06	6.66%	81.67
160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 手術あり K0811等	73	58.95	26.30	16.43%	84.84
160760xx97xxxx	前腕の骨折 手術あり	22	28.27	5.68	4.48%	84.31
070160xx01xxxx	上腕末梢神経麻痺 手術あり K093等	16	4.75	4.83	0%	70.25
070350xx01xxxx	椎間板変性、ヘルニア 手術あり K134-2\$等	16	18.69	10.47	6.25%	50.87
070350xx97xxxx	椎間板変性、ヘルニア 手術あり その他の手術	16	18.5	15.83	0%	52.56

脊椎圧迫骨折、股関節大腿骨骨折、脊椎疾患の患者さんが多く、そのほとんどが高齢者で内科疾患を持たれている患者さんです。入院中の転院は内科疾患の悪化によるものですが、安定後は当院で在宅復帰を目標にリハビリテーション等を行っております。

在院日数におきましては、全国平均より比較的長くなってはおりますが、当院では入院から手術、リハビリテーションと一貫して在宅復帰に向け取り組んでおります。

3. 初発の5大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

5大癌とは、胃癌、大腸癌、乳癌、肺癌、肝癌で、初発または再発の患者さんを対象とします。

当院では、整形外科単科であるため該当の患者さんはおられませんでした。

4. 成人中肺炎の重症度別患者数

当院では、整形外科単科であるため該当の患者さんはおられませんでした。

5. 脳梗塞のICD10（疾病）別患者数

当院では、整形外科単科であるため該当の患者さんはおられませんでした。

6. 主要手術別患者数（上位 5 位）

当院の 1 年間における主要手術件数の上位 5 位を集計しています。

K コード	名称	患者数	平均術前 日数	平均術後 日数	転院率	平均年齢
K046-1	骨折観血的手術（肩甲骨・上腕・大腿）	56	2.78	49.53	14.28%	82.56
K046-2	骨折観血的手術（前腕・下腿・手舟状骨）	29	2.63	41.28	0%	70.68
K048-3	骨内異物(挿入物を含む)除去術 (前腕・下腿)	20	0.47	3.33	0%	71.28
K073-2	関節内骨折観血的手術（胸鎖・手・足）	19	1.31	8.62	0%	68
K081-1	人工骨頭挿入術（肩・股）	17	3.58	61.7	23.52%	83.41

当院の主要手術件数において、最も多い手術は外傷による骨折観血的手術であり、その他手、脊椎脊髄、四肢関節などの疾患に対し専門医による手術を行っています。

脊椎においては椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症などの患者さんも多く、負担の少ない鏡視下手術なども行っております。他には変形性関節症による人工関節置換術や、手根管症候群による手根管開放手術などが主なものになっています。

7. その他

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	-	-
		異なる	-	-
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	-	-
		異なる	-	-

当院では播種性血管内凝固症候群、敗血症およびその他の真菌感染症の患者さんはおられませんでした。

当院でも細心の注意を払っております。しかし、確率的に 0 とは言えません。起こりうる合併症につきましては、可能な限り患者さんに説明した上で、同意をいただくよう努めています。